

～地域を耕し種を蒔く～

藤沢市本藤沢

特定非営利活動法人さんわーく かぐや

副理事長 藤田靖正

1. はじめに

小田急線の善行駅から徒歩7分ほど、住宅街を通り抜けた先にある、築半世紀過ぎの平屋が“さんわーくかぐや”の入り口です。平屋の裏手には竹林が広がり、そこを抜けると兎小屋や鶏小屋、幾つかのアトリエ、ビオトープに畑、梅林などが広がります。

太陽のもと屋外でのびのびと体を動かし、身体作りを行う。SUN+WORK と、月と竹の象徴であるかぐや姫を合わせて命名しました。

定員10名の通所メンバーは、年齢も障害種別も様々です。障害があってもなくても共に過ごす場所という理念の元、農作業と創作活動を柱に、家族のレスパイトと家からの自立への一歩目としての支援に力をいれてきました。

2. 事例や取り組みの紹介

(1) 地域の方と海水を汲み塩を作る

海水を汲んで、薪で煮詰めて塩を作る活動が地域の方の関心を生み、毎年車5台位が連なり海まで行っています。自家製の米麴と、援農で手に入れた地大豆、そして海水由来のお塩と合わせ、手前味噌作りなども合わせて、とても喜んでいただいています。お塩はそれ以外にも、自家製の梅干しや日常の料理など、様々場面で活躍しています。



(2) 地域活性アートイベント参加

昨年は越後妻有トリエンナーレで、絵本作家の田島征三さんの作品制作のお手伝いを行いました。施設内で試作を制作し、藤野町にて沢山のアーティストと300本を超える竹を切り出し加工しました。



その他、2010年湘南台の町の活性化イベント、2012年復興支援祭り、2013岩手県一関市での地域活性イベントなど

(3) 地域商店街での職業体験

2015年から毎月1度職業体験として、地域商店街のパン屋さんやお花屋さん、八百屋さんや本屋さん、美容院さんにて、働く体験をさせていただいています。



3. 考察

(1) 地域の方と海水を汲み塩を作る

地域の方も魅力を感じる活動を行っているということを実感し、経験者として斧の使い方や、火の付け方などをアドバイスする側に回る経験と、塩が結晶化する場面やお味噌を捏ねる作業など感情を共にする場面により、関係性の距離が縮まり、大きな自信と経験を身につける事が出来ます。病院の入退院をくり返し、好きな食べ物すら無いと答えた、生きるエネルギーを失っていたメンバーが徐々に気力体力を取り戻し、俺は職人になりたいと一般就労していきました。

(2) 地域活性アートイベント参加

様々なアーティストと関係が生まれ、陶芸家が粘土や釉薬の作り方を教えに来てくれたり、染色家の方が鉋物染めを教えに来てくれるなど、プロの技術を沢山伝えて頂くことが出来ました。養護学校卒業後10年引きこもった結果、発語も無くなり、帽子を目深に被り表情すら確認出来なかったメンバーが、様々なアーティストから作品を誉められ、今では来客があると自分の作品をPRする様になりました。今では作品制作で関係が生まれた新潟県の「絵本と木の実の美術館」で作品を置いてくださっています。

(3) 地域商店街での職業体験

地元商店での就労体験は、人生経験が豊かになるだけではなく、地域の方との様々な関係が生まれました。発語のないメンバーに様々なお仕事を教えてくれる店主の方々、そのコミュニケーションは言葉が出るかどうかは関係無い事を証明していました。さらには、そのお店に買い物に来るお客さんにも、同じ地域で様々な障害がある方が共に暮しているということを体感として伝える事ができました。また、先日のお客さんから通所の途中で声をかけていたと、メンバーから話しが出る事もあり、関係が1度でも生まれると、地域の方も声をかけやすいのだと感じます。

4. おわりに

目の前のその人の裏側には長い暮らしの営みがあり、それぞれが全く違う背景を持っています。誰もが自分の強みや個性を発揮出来る環境があれば、自己肯定感が高まり、自ら挑戦し、他者に優しくなり、支え合い応援し合う関係が築けるはずです。

医学の身体的障害と、社会参加の障壁という意味での障害がありますが、その方にとっての障壁を低くする、個への共感がベースにあれば、地域での暮らしは楽になるはずです。

かぐやでボランティアをした方の中には、何人も障害福祉の仕事に就いた方がいます。

とても小さな施設である、かぐやのお祭りには400人を超える方が訪れます。

関係を築いた方は、メンバーにとって地域の中でのサポーターとなります。そこから本当の地域共生社会が生まれることを願っています。

メンバーが地域を耕し種が落ち、あちこちで芽生えが生まれています。

